

一般部毛筆最優秀作品

(4月28日締切分)

(吉田成美先生評)



条幅隨意
(臨書)

師範正 末森 水苑
構え大きく、リズムに
乗った無理のない筆捌き
と自然な氣脈・線の抑揚
が魅力的な作品である。
横画の右上りすぎに注意
し、古典から字形や線質
の多様性を取得してほしい。

枯樹賦の用筆をよく理
解し、筆の弾力を生かし
た抑揚の変化と字間の明
るさ、字形の懐の広さが
よく表現されている。「繼
続は力なり」無理なく、
マイペースで、書を楽し
みましょう。

条幅規定

師範 卍田 采姤
日頃の若さあふれる線
ムに乗った澆刺とした筆
致で、自然に無理なくま
とめている。や、波磔部
分が早書きになり細くな
りすぎたのが今後の課題。
精進を。

一般部毛筆最優秀作品

(4月28日締切分)

半折
1/2
横

師範 佐田 聰春

余白の白と墨の黒の対比よく、
温厚な線の中にも抑揚のきいた
線の変化や文字の大小が作品全
体をモダンにまた立体的に仕上
げている。このセンスを生かし、
佐田ワールドに期待する。



半紙隨意(臨書)
六段 櫻井 敏子

切れ味の良さと安定
した章法が魅力的で線
の抑揚もきいて、よく
この古典を理解した作
品である。この調子で
目標を持って精進して
ほしい。

半紙隨意

師範止 樋口 卓也

骨力のある力強い線
で日々から威風堂々と
した安定感のある作品
を拝見する。参考手本
に捕らわれることなく、
古典から成家への大道
を。

半紙規定

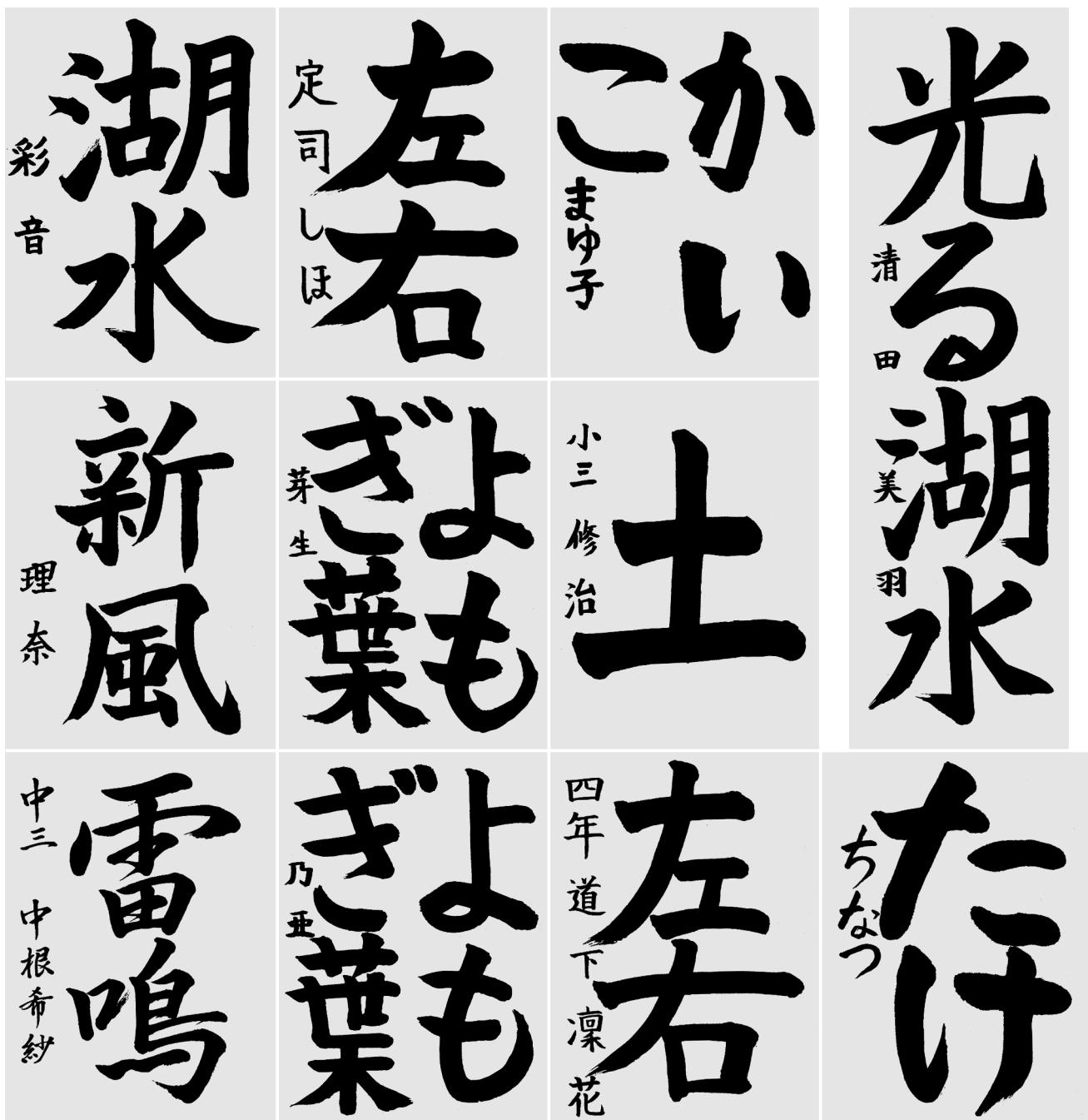
成家 立谷 青霞

さくらの散る潔さも
魅力的であるが、その
詩情を線質と墨色でよ
く表現された快作であ
る。作品は感動から生
まれる。更なる精進を。

学生部毛筆最優秀作品

(4月28日締切分)

(坂元紫香先生評)



学生部条幅
1/4

小六 準六段 清田 美羽

温か味のある線で、元気よく書いています。名前もしつかりと

練習が出来ています。今後は、
“ハネ”“ハライ”的筆使いを再確
認し、上を目指してください。

荒田真悠子

佐渡嶋修造

三 漢文編
ハ三
木本のふでづき

形もよくとどけています。

が有段者の作品

定同 指徳
指揮 勝

小四 準五段 小五 準四段

いきます。全

、しつかりと書いています

お待たせいたしました

早川 準四段

い線で、全体
バランスの良
品です。召喚ま
ている明るい作

で気をめがけては、完璧度の高い商品です。勉強しつかりと書け

位を目指しかんばつてください。

中根 希紗	小一 準7級
中二・三特待生 行書の流れを自分 のものとし、 名前までよく練 習のできた立派 な作品です。是非 どんどんチャレ ンジしましょう。	おてほんをよく みて、なまえま でとてもじょう ずにかけていま す。たくさんれ んしゅうした どりょくがみの りましたね。

硬筆部最優秀作品

(4月28日締切分)

(坂元紫香先生評)

段級 氏名 百留 実和	花の球根や野菜の種を優しく包 んでいる土のにおいだ。育海はス カートのすそに泥はねが付く雨の 日は好きではないけれども黒い 土のにおいをかぐのは好きだった。	「いちねんせいかよし」
段級 氏名 城戸 浩菜	子馬はぱちりとまばたきました。 春花はその美しい目にすいこ まれそうな気がした。作業を していた牧場のおばさんがあ を止めて、春花に話しかけた。	「ひわたりしこころ」
段級 氏名 田中 謙多	黄身がくずれているから、お父さ んが作ってくれたのだろう。朝は 時間がないんだから、おかげなん か作らなくてもいいのに。目玉焼 きくらい、ぼくはもう作れるのに。	「ひわたりしこころ」
段級 氏名 入江 春菜	運転席から取り出したのは、 あの夏みかんです。日の光をそのまま受けた よつな見事な色でした。	「ひわたりしこころ」
段級 氏名 池畑 雅	運転席から取り出したのは、 あの夏みかんです。日の光をそのまま受けた よつな見事な色でした。	「ひわたりしこころ」

書譜

段級 氏名 村内綽子	「好雨」という言葉が杜甫の詩にある。 よい雨は時を心得、春になると降り 出して万物を潤す。乱調の空に読んで 聞かせたくなる名文句である。温暖化 を防ぐべく、人間がかみしめるべきか。	「やまとぢりこ」
段級 氏名 百留 実和	十年後の妻へ 未だかね子供たちは社会人です。 夫婦ふたりの年を二十五年ぶりに 再開しました。 土曜日は近くの温泉宿に泊まり美味しい料理を食べ、日曜日の午前中は宿を出て、ゆっくり湯を引きました。 お互いの育てた子を喜びました。	「やまとぢりこ」

小一 準6級 松山 咲良	花の球根や野菜の種を優しく包 んでいる土のにおいだ。育海はス カートのすそに泥はねが付く雨の 日は好きではない。けれども黒い 土のにおいをかぐのは好きだった。	「やまとぢりこ」
小三 準7級 城戸 浩菜	運転席から取り出したのは、 あの夏みかんです。日の光をそのまま受けた よつな見事な色でした。	「やまとぢりこ」
小四 準初段 入江 春菜	運転席から取り出したのは、 あの夏みかんです。日の光をそのまま受けた よつな見事な色でした。	「やまとぢりこ」
小四 準初段 池畑 雅	運転席から取り出したのは、 あの夏みかんです。日の光をそのまま受けた よつな見事な色でした。	「やまとぢりこ」
小二 6級 西島 鈴玉	「わたしたちも、ゆれて、おどりた ねもとに野ねずみの家族が、みんなできつつき を見上げています。	「やまとぢりこ」
小三 3級 田中 謙多	運転席から取り出したのは、 あの夏みかんです。日の光をそのまま受けた よつな見事な色でした。	「やまとぢりこ」
小四 準初段 友成 天音	運転席から取り出したのは、 あの夏みかんです。日の光をそのまま受けた よつな見事な色でした。	「やまとぢりこ」
小五 準二段 百留 実和	花の球根や野菜の種を優しく包 んでいる土のにおいだ。育海はス カートのすそに泥はねが付く雨の 日は好きではない。けれども黒い 土のにおいをかぐのは好きだった。	「やまとぢりこ」
小六 準三段 村内 綽子	運転席から取り出したのは、 あの夏みかんです。日の光をそのまま受けた よつな見事な色でした。	「やまとぢりこ」
小七 準一段 西島 鈴玉	「わたしたちも、ゆれて、おどりた ねもとに野ねずみの家族が、みんなできつつき を見上げています。	「やまとぢりこ」

やまとぢりこ
おてほんをよくみて、一じじていねいにかけましたね。なまえもとてもきれいにかけました。これからもがんばってね。

やまとぢりこ
三年生になつて初めての作品とは思えないほど漢字と平仮名のバランスの良い、のびやかな作品です。今後、さら期待します!

やまとぢりこ
お手本をよく観察して、一字一字丁寧に書けています。難しく漢字もよく練習ができる、いまでも多く

やまとぢりこ
お手本をよく観察して、一字一字丁寧に書けています。難しく漢字もよく練習ができる、いまでも多く

やまとぢりこ
お手本をよく観察して、一字一字丁寧に書けています。難しく漢字もよく練習ができる、いまでも多く

やまとぢりこ
お手本をよく観察して、一字一字丁寧に書けています。難しく漢字もよく練習ができる、いまでも多く

やまとぢりこ
お手本をよく観察して、一字一字丁寧に書けています。難しく漢字もよく練習ができる、いまでも多く